

夢見たとおりの未来になったかい？

- M「今回のテーマは『お仕事』なんでね。ここはやっぱり『子どもの時になりたかったもの』について聞いてみましょう！ハイ、チョコタルトちゃん！（←インスタで命名済み）」
- T「…お、お金持ち、です」
- M「なんと。意外と子どもの頃から野心家さんね！Fさんは？」
- F「私は…漫画家です（照）」
- M「ええっ？絵なの？文字じゃなくて絵の方なの？私はてっきりその読書量から作家だと思ってたよ」
- F「いやぁ、漫画家は絵とお話両方考えないといけないと気づいて諦めましたけど」
- M「ちなみに私は本屋です。紀伊●屋みたいに分の苗字を屋号にした〇〇屋を作って全国展開させようと目論んでいた中学生」
- F「自分のお気に入りや並べた小さな本屋♪とかではないんですね…現実的」
- M「てでは『図書館司書』を目指そうと思ったのはいつ？ハイ、Tちゃん！」
- T「…私はずっと小さいころから司書を目指してました」
- M「いや、今お金持ちって言うてたやん。この野心家めー」
- T「お金持ちは2番目だったんです！本当です（泣）」
- M「わかったわかった。そういうことにおきましようね」
- F「私は図書館員のことを『司書』っていうのを知らなくて。友達がなりたいてって言うてたのを聞いて『そうか、図書館の人は司書って言うのか！』って知ったんです」
- M「…そーいや私も『司法書士』とごっちゃになってた気がする。司書とは法律関係の仕事だと思っていたような？」
- F「間違えたまま司法書士にならなくて良かったですね…」
- M「ちゃんと司書資格を取って図書館にお勤めできています。今思えば人生のいろんなタイミングがうまく作用して、ここで働いている自分があるという気がする」
- F「突然人生哲学？」
- M「長く生きてるといろいろあるのよ。就いた仕事ややりたい事じゃなくても、その仕事をした経験はきっといつか人生の役に立つ！これ、アドバイス」
- T「…メモします」
- F「いや、Tちゃんはやりたい仕事に就いてるでしょ」



←インスタは
ココ

<https://www.instagram.com/hondarake55>

←ブログはこっち <http://sanda-city-lib-ya.sblo.jp/>

ホンダラケ

2021. 10.1

目指せ☆はたらKING

YA世代の未来は無限。
なりたいものになれるかどうかは君次第。

『戦うハニー』

新野剛志：著 KADOKAWA 2016年刊



F/シン

「星野親です。英語に訳すと、スター・ワイルド・ペアレント。趣味は〜という自己紹介から始まるこの作品。主人公は新人の男性保育士。彼を待っていたのは、男性保育士としての苦勞、子どもを預ける多種多様な親たち、「みつばち園」を取り巻くトラブル……。それらに立ち向かっていく主人公が描かれています。園児の世話をするだけではない、守るために働く保育士たちのストーリーです。舞台の保育園らしい、かわいい表紙も素敵な一冊です♪

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA（ヤングアダルト）コーナーでご覧いただけます。

2か月に1度、年6回発行予定です。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

テーマは「実写化」。紹介する一冊はこちら。

やはり人気の高い作品なんですね!争奪戦の予感……

『植物図鑑』

有川浩:著 幻冬舎 2013年

マンションの部屋の前に落ちていたイケメン。あなたなら拾いますか……?

名前しか教えてくれなかった青年イツキとの同居生活の中で山草の知識とイツキへの恋心をつのらせていくさやか。

イツキの正体は何者なのか、なぜ見知らぬ土地で行きだおれていたのでしょうか。さまざまな山草メニューとともに楽しみください。



F/アリ

P.N. そっか (高校2年生)

「こんな本、棚から見つけました」のコーナー

このコーナーでは、スタッフが棚を見て“再発見”をした本を紹介し

『障害者とともに働く』 藤井克徳・星川安之著 岩波書店 2020年

生きていくうえで、避けては通りがたい「働く」。それは、障害者と呼ばれる人も同じです。

この本は、そうした人たちが置かれている現状、実際に会社でどのように働いているかを紹介しています。その中で繰り返し伝わってくるのは、「人が仕事に合わせる」のではなく、「仕事を人に合わせる」という考え方。自分が障害者と言われる人でなくても、将来、一緒に働く機会があるかもしれません。そうしたことについて、一度じっくり考えてみませんか。



366.2/20

新着図書 Pick Up

『ミライを生きる君たちへの特別授業』

ジュニスタ編集部編 2021年刊 岩波書店

「将来の夢は?」と聞かれて、てらいもなく「スポーツ選手!」とか「漫画家!」と答えられていたのは、何歳ぐらいまでだったでしょう。学校などへ行くようになって、知る世界が広がるほど、多くの人に出会うほど、言えなくなっていった、という人は少なくないと思います。

将来への悩みに、さまざまな分野で活躍されている人がくれるアドバイス。自分の未来に素直に、貪欲にしよう!と励まされます。



159.7/21

YA世代のために血を吐く思いで名作を紹介するコーナー

『二十四の瞳』 壺井栄:著 2018年刊 岩波書店

「おなごせんせが きたぞ!」

昭和初期。瀬戸内の小さな村の分教場に赴任したのは、女学校を出たばかりの大石久子。彼女を出迎えるのは、分教場に入学した12人の1年生。当時には珍しい自転車を颯爽と乗りこなす大石先生は、子どもたちに慕われ楽しい日々が過ぎてゆく。しかし数年がたち、卒業や退職を経てかつての教え子に再会する頃には戦争の色が濃くなっていた。戦争反対と言えない時代に教え子の未来を憂い、反戦を胸に秘めた大石先生と子どもたちの二十数年間のお話です。



F/ツボ